

# 戸籍の窓

届出日  
(4月1日～4月30日)

戸籍の窓は、広報紙への掲載希望のあった方を掲載しています。(※敬称略)

山名 上野 東條 清川 徳重  
彩心 奏大 兼大 令透 郁人

うぶ声

《出生児》

知順 磨貴 梓真 友康 祐宗  
未也 弥大 徳 美弘 奈護

《保護者》《地区》



菱田 永吉 横瀬 仮宿 仮宿

長重 今給黎 山下 原口 領家 相星 吉田 穂園 布袋 馬場 郷萬  
充輝 シヅエ 喜行 スミ子 キリ ミエ ツエ 一 清孝 政義

おくやみ

《故人》

(73歳・菱田) (91歳・横瀬) (89歳・菱田) (87歳・野方) (86歳・菱田) (90歳・野方) (83歳・仮宿) (87歳・持留) (96歳・岡別府) (82歳・益丸) (91歳・横瀬)

《年齢》《地区》

# ほっけもん

288 白ごはん



## 人権啓発シリーズ

～正しい理解を深めることで意識が変わる。  
偏見や差別を許さない行動が社会を変える～

同和問題は、日本社会の歴史的過程で形づくられた身分差別により、一部の人が長い間、経済的、社会的、文化的に厳しい環境を強いられ、今なお日常生活の上で様々な差別を受けている、我が国固有の人権問題です。

学校や家庭、地域、職場で同和問題について人権感覚を養い、一人ひとりが偏見や差別を許さない行動をとることが大切です。なお、「同和」という用語は、極めて差別的な意味合いで使われてきた歴史的経緯があります。意味を正しく理解した上で、「同和問題」や「同和教育」など省略形でない用語を使用しましょう。

## 大崎短歌会

冬過ぎて 春来たるらし 我が郷も  
初田の耕し 田植えも近く  
名失せし 新種の水仙の 花開く  
八重咲き白の その華やかさ  
そのみどり 孤高の色なり 貝母百合  
つぼみ抱きて すつくと伸び立つ  
この世をば 支ふ大地を 耕しくる  
春の音聴く 花冷えの朝  
つかのまに 田植えおわりし 横瀬田は  
水面優しく 小波たてり  
流木を 焚きて待ちいし 初日の出  
横瀬の浜の 昭和はるけし

実吉安仁  
長重悦子  
上南紀子  
馬場みさ  
坂元つる子  
穂園芳江